

<児相・保護所での経験> 長女が一時保護体験を語る

S.R 大学1年

1.概要

平成26年度の冬ごろ、私が悪事を働き、それに関する親との喧嘩で負傷したことを学校の先生が通報して保護された。

保護されて間もないころは心の状態が良好ではないことに伴い食欲もなかったせい、幼児と同等の量まで食事が減らされた。食欲が改善したことを伝えた後も継続されていた。

私が入った保護所では、男女が別れて小学校1年生から高校3年生が同じ空間で過ごす。この環境において中高生から小学生への高圧的な態度やいじめが高頻度で見受けられる。

保護所では勉強時間が設けられたものの、問題を解いてから保護所職員に採点されるだけで、質問に対する十分な解答をもらえなかった。たまたま私が学問に精通していない職員に当たっただけかもしれないが、公立学校と同等の教育は受けられないと思われる。

2.当時・現在の心情

児相の職員に連行される時はそれについて何も聞かされていなかったため不安な気持ちであった。今思うと、子どもに対してメンタルケア無しで連れていくことはやめていただきたい。

食事に関しては、食欲が改善しても同学年と同じ量を食べさせてもらえなかった日々は空腹との戦いであった。税金で食べさせてもらっていることを考えると、当時の私は我儘を言っていたのかもしれないが、あの様な思いを他の子どもがしているのであれば、速やかに改善して欲しい。

中高生からのいじめ（罪のなすりつけ、陰口、突然ボールを強く投げ当てて笑う等）について、同じ被害を受けた小学生たちとともに児相・保護所の職員に相談したが対処してくれることはなく、ひどい職員の場合は無視してきた。何度も訴えても結果は変わらず、疲弊した私は独房に入りたい旨を伝えたが、却下されてしまった。独房には限りがあるため私だけに特別な対応を行うことができなかつたのかもしれないが、それなら問題である中高生の対処を怠るべきではなかつたはずである。

学習面に関して、退所前後で両親が学習塾に通わせてくれたおかげで、保護所にいて遅れた分を取り戻すことができたため不幸中の幸いであったと思う。

以上のことから保護所よりも両親のもとでの生活環境の方が良かったという気持ちは今も保護された当時も変わらない。

3.伝えたいこと

私はこれを機に皆様が児相・保護所について少しでも知っていただければ幸いである。私は大学で教職課程を履修しているが、学校教員は児童・生徒が虐待を受けている可能性が

ある場合は児相へ通報することが正解ということしか教えられていない。そのため一般の方は知らなくて当然である。しかしその無知によって私と同じような扱いを受けたり、現在児相の管理下にいる私の弟のように進路を制限されたり等、子どもの人生をさらに悪い方へ導く場合があることを、様々な人に理解していただきたい。そして児相・保護所の環境改善が行われることを願っている。